

電気から勇気を

中学一年

河井

瑠子

「今から何をするかのも教決をとります」  
まむクラス全員の名前を覚えていらないような  
時に行うクラス交流会だ。そんなことは決まっ  
ておろが学級代表を申しだみんなで決める。  
今のところウインクキラーか鬼ごっこ。ウイ  
ンクキラーなんて知らないし、鬼ごっこのお  
うに走るのは苦手だ。

「ああー。せつかくコートもボールもある  
のだからドッチボールとかがいいな」

あれこれ考えているうちに学級代表の

「ながかつたうこの2つで多数決ですよ」

という声があつた。結局言いたいことも言え

ずにウインクキラーになつてしまった。私は

ただ友達について行くだけであく楽しくはか

つた。クラスには他にも同じように、楽しく

なさそうにうろうろしている人がいた。

「あの人たちもか！自分の意見を言つてお

いたら良かったかなー」



こんな経験から私は「以心伝達機」という  
ものがあればいいと思う。仕組みは簡単。自  
分の考えを脳が電気信号化する。それが、こ  
の機械に届けられ、相手の機械に伝わる。そ  
もて相手の脳に伝わるのだ。それにこの機械  
は、自身の呼吸運動や心拍で充電できるので  
省エネだ。

これを使えば、さっきのあんな場面でも  
「インクキラー」とは何か？ ドタッチボールが  
良い

という発言ができ、そのことで多数決で決ま  
ってしまえば、そんな流れを愛えられたかも知れ  
ない。

そんな、少し勇気が足りないうちの背  
中をおしてくみ出る電気製品が未来の世の中  
にたくさんあることを期待する、